

## ★ 操 作 方 法 ★

マンガのページの上でクリックすると次のページを表示します。右クリックすると前のページに戻ります。

※ Macintosh で、マウスに右クリックの設定をしていない方は、キーボードの「control」キーを押しながらマウスをクリックすると前のページに戻ります。

※ iPad では、上下スクロールでご覧いただけます。



嘘

まきのまさる



涼や  
介あ



おばさん

拓也くん  
今日は  
ありがとうね  
何もないけど  
食事の用意を  
してるから食べて  
行ってね



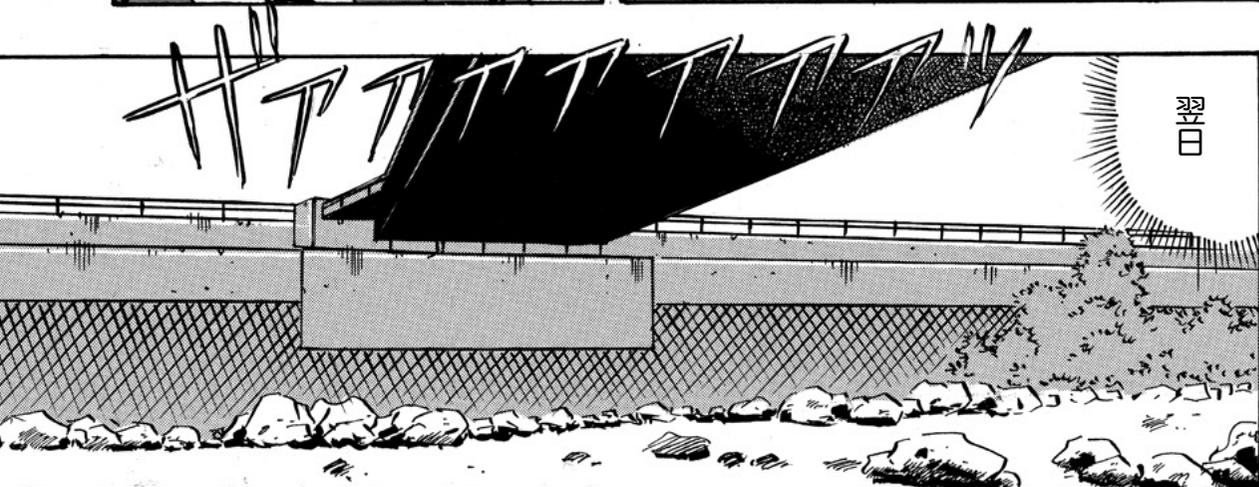
まさか  
こんな形で  
再会するとは  
思わなかったよ



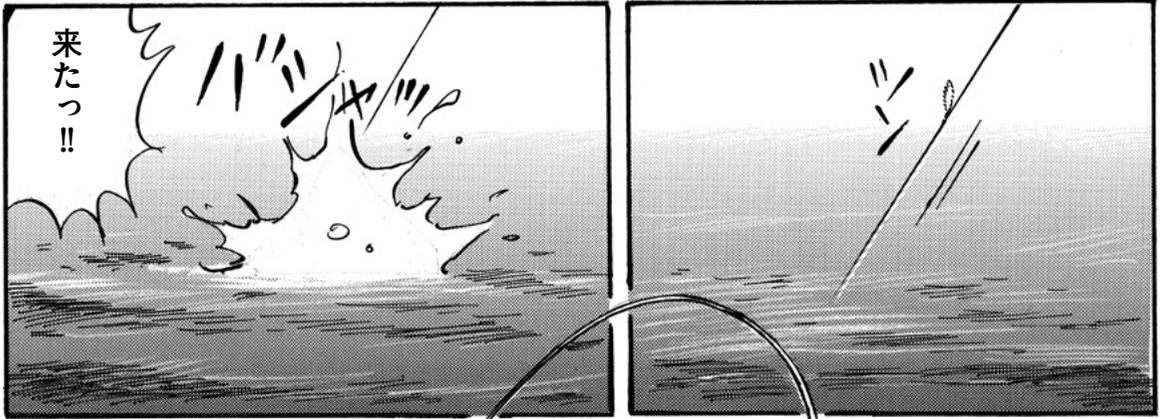
彼女は  
涼介の姉で







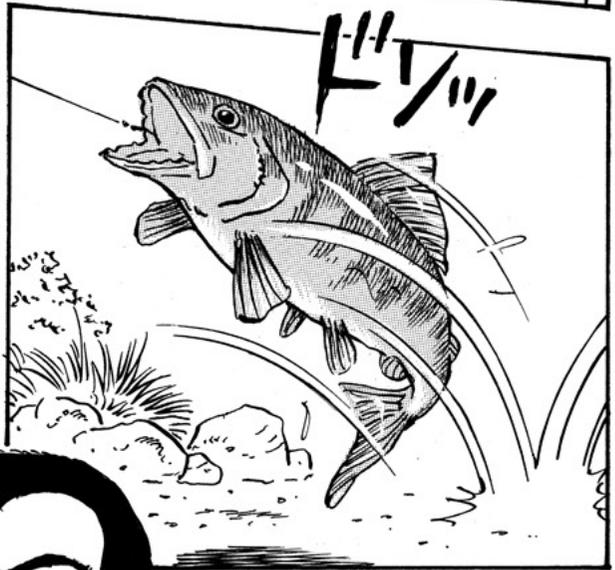
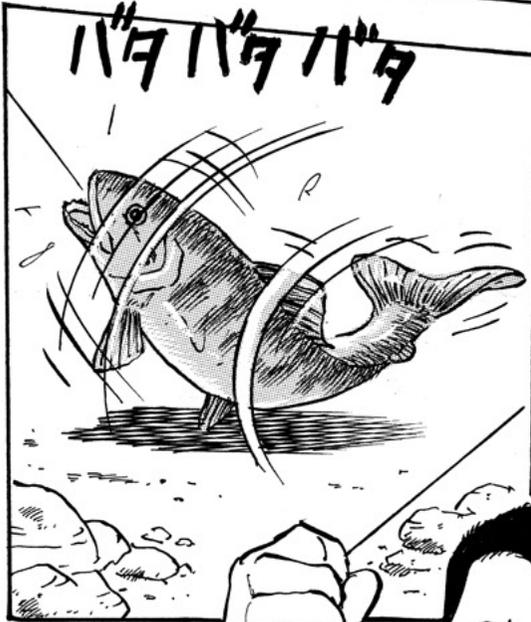
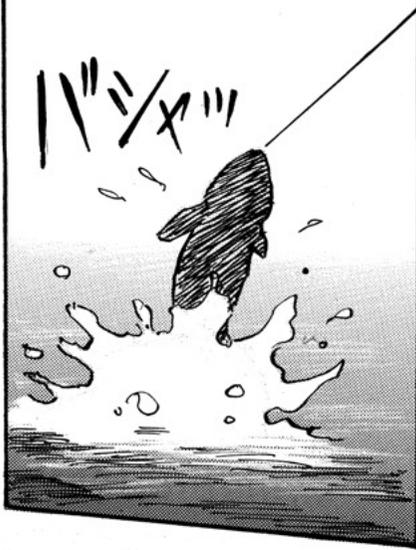
来たっ!!

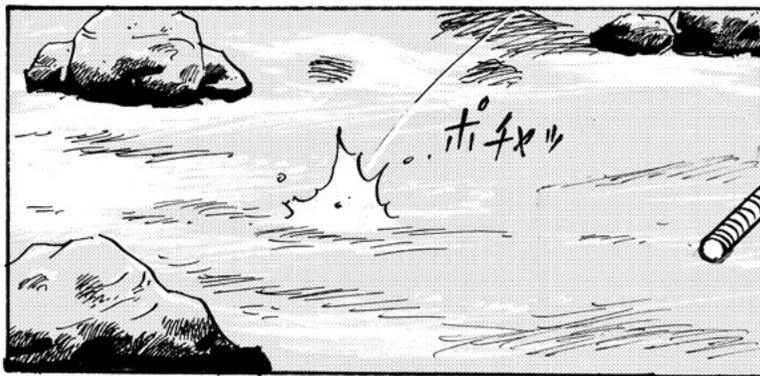


やったね  
拓也!!



でかいぞ  
涼介!!







今だ  
あわせろ!!



もっと  
サオを  
立てろ!!

涼介  
気をつけろ  
瀬に入られるぞ



よし  
かかったぞ





そして  
涼介と私は  
又・シの住む  
大滝の淵に  
やってきた



ここは昔から  
川・又・シが住み  
ついていて今まで  
何度も糸を切られて  
いたのだった

私は涼介と  
並んで  
サオを出した



そして  
当りが来たのは  
涼介のサオだった

ギン

あ?



落ちつけ  
涼介!!

来たぞ  
拓也!!



きつ  
来た!!



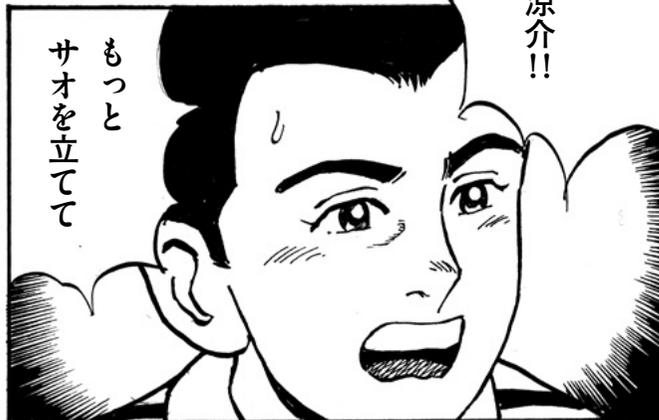
まずい!!  
右側にまわら  
れたら糸を  
切られるぞ!!

拓也  
どうすれば  
いい!?

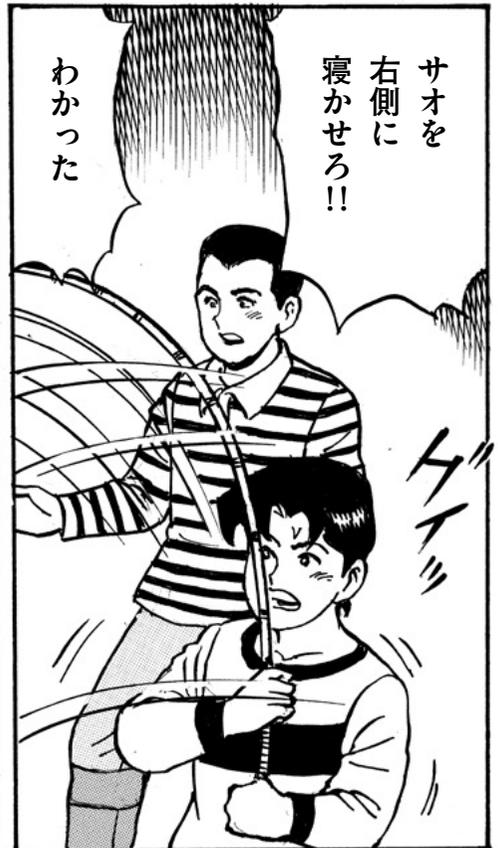


スーッ

よし  
いいぞ涼介!!



もっと  
サオを立てて



サオを  
右側に  
寝かせろ!!  
わかった

クッ

格闘10分  
ついにヌシの姿が  
現われた!!

# エローツ



やったー!!  
大滝淵のヌシを  
取ったぞー!!



体高い10cm  
全長45cmの  
丸々と太った  
大イワナだった



にげられないように  
ヌシをビクに  
入れ

私達は  
山菜を採りに  
山の中に入って行った

いやー  
すごかったな  
まだ腕がしびれ  
てるよ

じつは  
涼介の家は  
民宿をやっている  
釣りに行った時は  
必ず山に入って  
山菜を採るのが  
日課だった

見ろよ拓也  
この山うど  
すごくりッパ  
だぞ

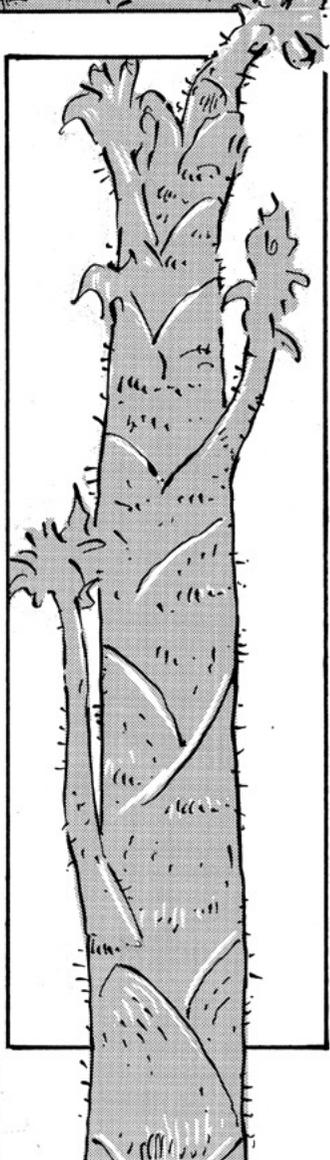
本当だ  
すごいな

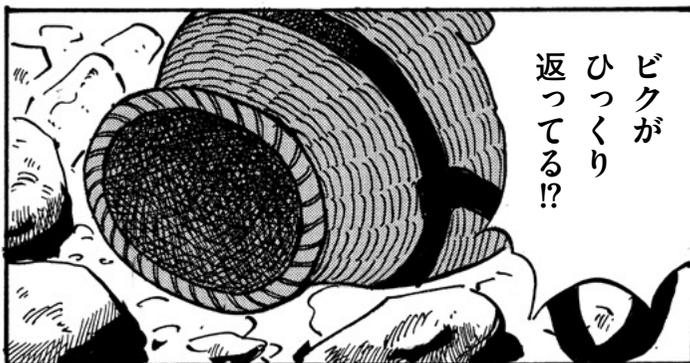
エヘヘ  
こんなでつかい  
山うどを持って  
帰ったらお母さん  
喜ぶぜ

これだけ  
あれば十分かな

拓也  
帰ろう

ああ







せっかく  
釣ったのに



くっそー



ちくしょーっ!!

ヌシに  
にげられたーっ!!





ビクのひもを  
ゆるめ  
涼介が釣った  
又シを川に  
もどしたんだ

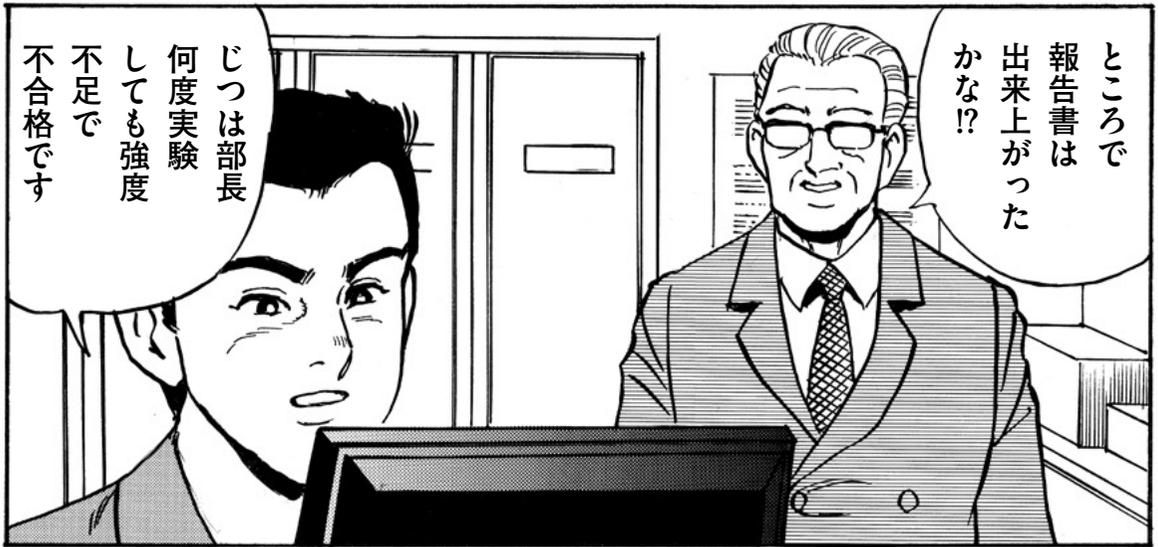


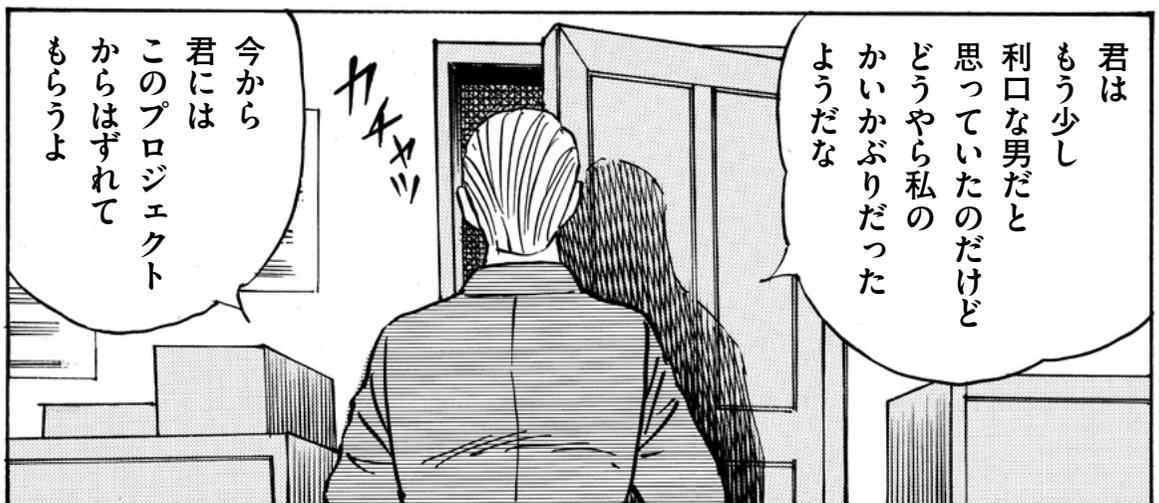
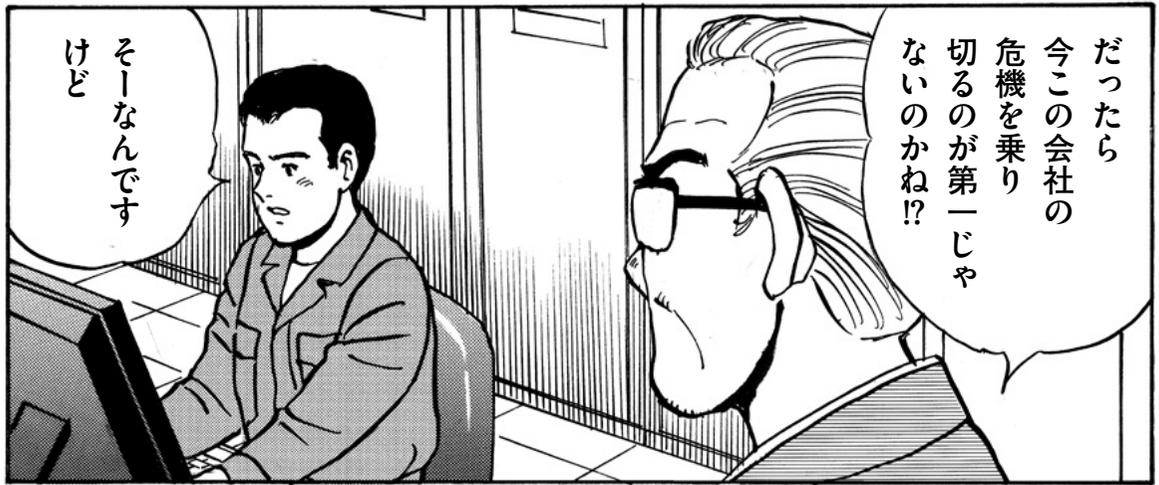
今まで  
嘘をついていて  
ゆるしてくれ



すべて俺の  
せいだ  
すまん涼介







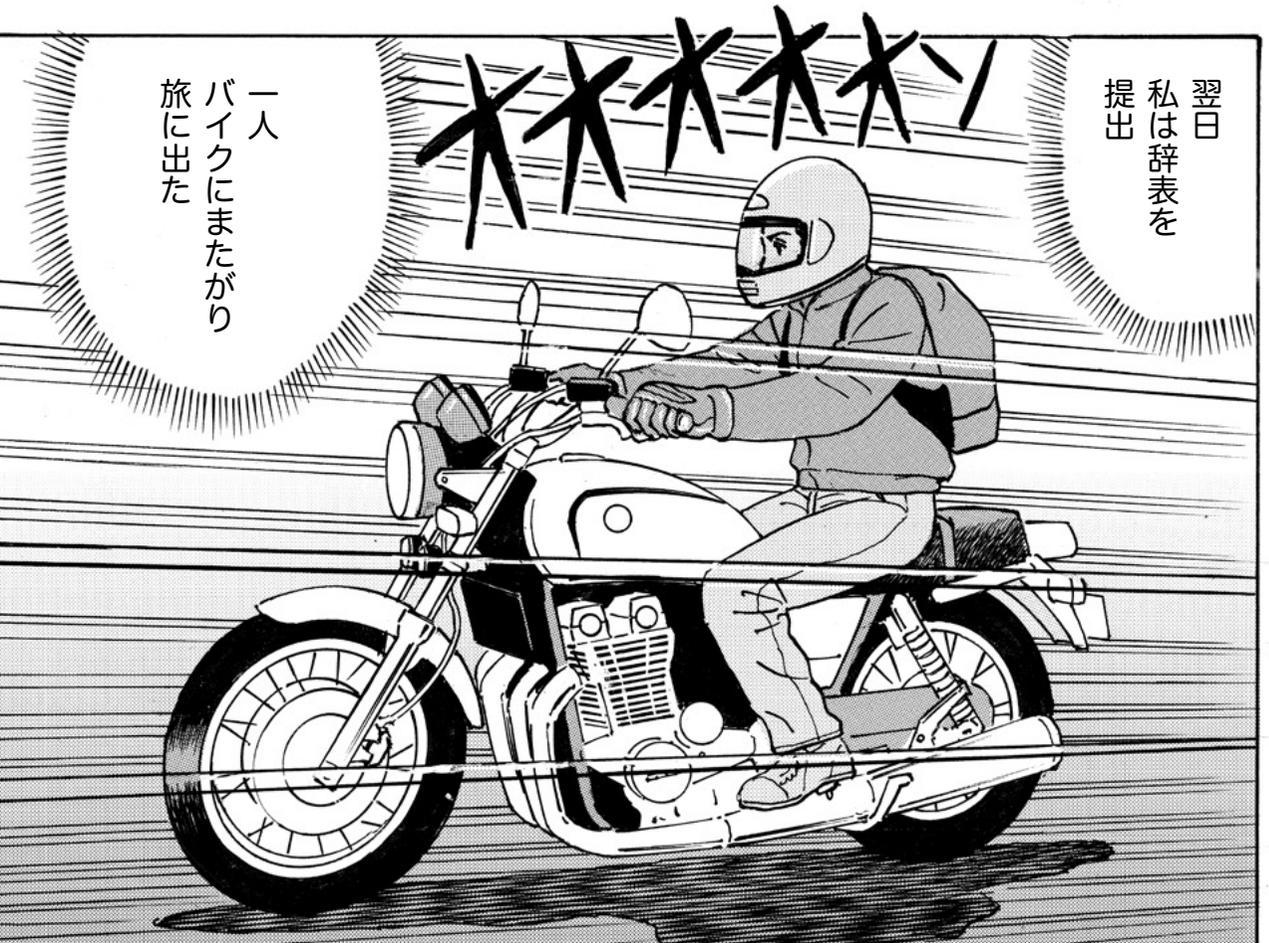


じゃ

わかりました

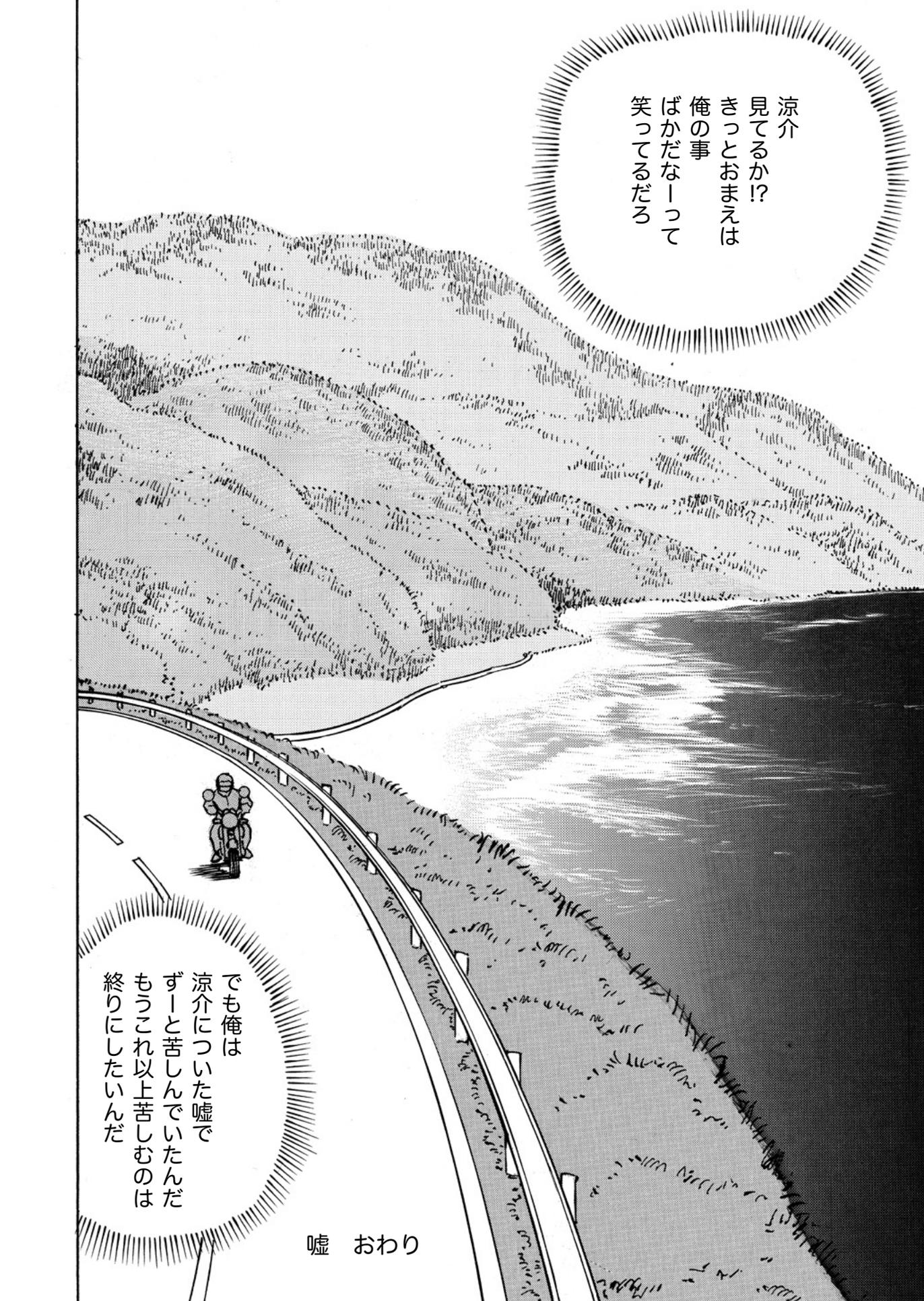


それと  
娘との結婚は  
なかったものと  
思ってくれたまえ



翌日  
私は辞表を  
提出

一人  
バイクにまたがり  
旅に出た



涼介  
見てるか!?  
きっとおまえは  
俺の事  
ばかだなーって  
笑ってるだろ

でも俺は  
涼介についた嘘で  
ずーと苦しんでいたんだ  
もうこれ以上苦しむのは  
終りにしたいんだ

嘘 おわり